

「お父さん、一緒に帰ろう」

いま No.452
子どもたちは
親が離婚した… ③

1月20日、東京都内の児童施設は親子連れでにぎわっていた。「待って待って」。会社員のケンジさん(44)は、遊具の間をうろしそろうに走り回る娘のカヤ

ちゃん(4)を汗だくになんて追いかけた。親子のありふれた触れ合いに見えるが、2人が会ったのは4年ぶりだった。

カヤノちゃんが生まれてすぐ、ケンジさんと妻のミユキさん(26)は別居した。ミユキさんがカヤノちゃんを育てながら協議を続け、昨年7月、離婚が成立した。離婚の条件として、養育費の支払いとともに、カヤノちゃんとの定期的な面会交流が約束された。

もともと面会交流を希望していたのは、自身も離婚家庭で育ったミユキさんだった。生まれる前に別れた父のことを何も聞けないまま、小学3年のときに母が病気で亡くなった。「私には何かあったときに帰る場所がない。自分の親の情報を知っておくのはとても大切なこと」カヤノちゃんには時々、父がいることを聞かせてきた。娘は「背が高くて、カッコいい人がいいな」と無邪気に話してい



た。でも、別れた夫に会うのは、気が進まない。娘をケンジさん

ケンジさんが作ったおにぎりとミユキさんが作った卵焼きなどのおかず
20日、東京都内

と2人きりで会わせることにも抵抗があった。「連れて行かれたらどうしよう。私の悪口を吹き込まれたらどうしよう」弁護士に紹介されたNPOびじつと(横浜市)に面会交流の支援を依頼。理事長の古市理奈さん(41)に同席してもらうことにした。古市さんは「子どもを一方だけの所有物にしてはいけない。両親から愛されている実感は、子どもの成長に欠かせな

い」と話し、ケンジさんとミユキさんにエールを送る。

この日の面会は、古市さんの提案で3時間。遊具で遊び、絵を描いて、父と娘の時間はあっという間に終わった。

ミユキさんが迎えに来た。抱っこしていたケンジさんがカヤノちゃんを下ろす。カヤノちゃんはミユキさんに手を引かれながら、もう片方の手でケンジさんの手を握った。「楽しかった。お父さんが作ったおにぎりおいしかった。一緒に帰ろう。今度はもっといっぱい長く遊ぼう」
(古田真梨子)